

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

申請日: 令和6年10月10日

①学校名:	高知大学 大学院(国立)		②所在地:	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
③課程名:	総合人間自然科学研究科 修士課程 医科学専攻 ヘルスケアイノベーションコース				
④正規課程／履修証明プログラム:	正規課程(修士)	⑤定員:	医科学専攻 15名 (令和5年度コース修了者数8名)	⑥期間:	2年間
⑦責任者:	医科学専攻長 井上啓史		⑧開設年月日:	令和3年4月1日	
⑨申請する課程の目的・概要:	本コースは、医工連携をベースとして、人、組織、社会のヘルスケアを実現するため、我々が現場で遭遇するインシデントなど医療安全面での課題をはじめ、組織におけるマネジメントの機能障害、高齢化社会、医療過疎、自然災害、パンデミックなど社会的な課題に対しても、自ら解決策を考え作り出していくことのできる能力を涵養することをめざしたプログラムである。課題解決には、組織の縦割りを越えて人と人を繋ぎ、他領域と連携しながら領域間の壁に阻まれて埋蔵状態となっているリソースを掘り起こし、あるいは課題解決に役立つモノ、ワザに目を付け活用することのできるInnovative Resource Manager (IRM)としての能力が必要である。それを修得させるには、幅広い知識に加え、さまざまな視点で考えることのできる力が必要で、本コースのカリキュラムはそれを効率的に身につけさせるための内容として、医工学の基礎科目をベースにコミュニケーション、イノベーション、さらに危機管理能力、病院経営、医療政策など幅広いテーマの科目を設置している。				
⑩10テーマへの該当	1 女性活躍 ○	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護 ○	9 起業 ○
	2 地方創生 ○	4 DX ○	6 就労支援	8 ビジネス等	10 防災危機管理 ○
⑪履修資格:	学校教育法第102条に規定する大学院に入学することができる者及び本学大学院が認めるもの(詳細は募集要項に記載)				
⑫対象とする職業の種類:	医療技術者、薬剤師、保健師、管理的職業、その他の職業であって、自己涵養、課題解決能力向上をめざす者				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 医学および工学の考え方や知識、医用工学、論理的思考、統計学、人工知能、組織マネジメントと地域社会に関する知識、プログラミング、ファシリテーションの技能、リスクマネジメントの考え方、起業に必要な考え方や経営学の実践的な知識(実習やフィールド調査を含む)など (得られる能力) 医療とそれを取り巻くヘルスケア、デジタルリテラシーなど情報工学に加え、組織における人材活用の考え方や実践的方策、現代社会の重要課題である高齢化・地域について最新情報を含め考え方、リスクマネジメントと合わせて学び、領域を超えて人を繋ぎ、埋もれたままの貴重な資源を見い出して活用するInnovative Resource Managerとしての基盤的能力を形成する。一方で自らの課題を解決する研究を通じて、課題解決能力に加え論理的思考能力を修得する。さらに、起業を目指す人にとっては、組織マネジメント能力に加えアントレプレナーシップの実践的能力を修得することが可能となる。				
⑭教育課程:	医工連携や研究開発の基礎知識を「医用工学」、「医療統計学」で学び(後者は演習も含む)、「医用システムデザイン工学」、「イノベーション」、「医用画像工学・人工知能」で医工の接点領域を理解し、「アントレプレナーシップ」、「組織マネジメント・リーダーシップ」で起業の基礎や組織における自らの役割を学ぶ(後者には企業スタッフとのディスカッションを含んでいる)。応用科目では、研究・開発の筋道を「ロジカルシンキング・デザインシンキング」で課題をこなしながら学ぶとともに、災害などトラブルへの対処を「リスクマネジメント・クライシスマネジメント」で複数領域の講師から、また地域社会、地域医療における課題やヘルスケアを含めた課題解決につき「地域社会レジリエンス・地域医療エンパワメント」で学ぶ。以上の基盤の上に、教育課程の後半では「医科学特別研究」で自分が解決したい課題(入学動機)を解決するための研究計画を立案し、複数回の発表を通じて指導教員からのブラッシュアップを受けて研究を開始し、データ解析、考察、表現、討議の能力を学位審査用のプレゼンテーション、修士論文作成を通じて鍛える。この教育課程を通じて、領域を超えた考え方や知識を修得するとともに、未解決であった自らの課題を研究で解決する経験を踏ませ、修了後に遭遇する課題を自ら解決する能力を涵養する。これら2年間の教育課程を通じて個々の職業に必要なとされるイノベーションを起こすための実践能力が育成される。付加的な価値として、教育課程において接した多領域の講師や指導教員とも繋がりを築けることは、その後の本人のキャリアにとってメリットとなる。				
⑮修了要件(修了授業時数等):	本専攻の修了要件は、本専攻に2年以上在学し、必修科目28単位、選択科目から2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を在学期間中に提出して、その審査及び最終試験に合格すること。				
⑯修了時に付与される学位・資格等:	修士(医科学)				
⑰総授業時数:	38 単位	⑱要件該当授業時数:	36 単位	⑲要件該当授業時数／総授業時数:	94.7 %
⑳該当要件	企業等 ○	双方向 ○	実務家 ○	実地	

⑳成績評価の方法:	各科目の成績評価方法は、各科目のシラバスに記載のある方法で行い、60点以上の評価を得ることにより当該科目の単位修得となる。修士論文に関しては、研究立案の過程でプレゼンテーションの内容、修士論文の口頭試問と審査などを総合的に判断して評価され修士の学位が授与される。
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施し、評価結果の公表を行っている。開講以降、基本形をある程度固めるため検証・評価は主に学生への「授業評価アンケート(様式1別添4参照)」や講師、学生に対する個別の聞き取りによって行い、実務担当者で改善を図ってきた。そのため、公表はホームページのように不特定多数に発信する媒体ではなく、本コースに関心を持ち、あるいは入学や受講を考えている人が多い年2回開催の「オフィシャルミーティング(様式1別添5参照)」の中で「コース紹介」として行ってきた。当初はコースの概要や方向性が主だったが、2023年度以降は、①「講師－学生の繋ぎ」に加えて「講師－講師の繋ぎ」の試みを始めたこと、②本コースを母体とした履修証明プログラムを新たに立ち上げたこと、③戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)への採択により大学院リーグの構築に参画することになったなどの変更の内容について公表してきた。4年目となる2024年度中に、評価委員会を設置予定であり、その評価結果は本コースのオフィシャルホームページで公表する予定である。
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	開講して日が浅く修了者の状況にかかる効果検証は十分とは言えないが、修士課程修了後に博士課程への進学(令和5年度末までに修了した17人のうち5人が本学博士課程へ進学)や学内で行われるKMSリサーチミーティング(研究発表会)での発表、さらに研究内容を発展させて論文発表などの実績を持って検証している段階である。
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 本コースは、前例がほとんどない内容のため、試行錯誤しながら進めている段階だが、企業等から講師を派遣していただく際に、講師あるいは派遣を担当する方々と面談して、コースのめざすものを提示し、先方の考えなどをいただきながら、講義内容などを考えているという状況である。したがって、確たる委員会は設置できていないが、個別に講師とのディスカッションを重ねるという形を取っている。また、オフィシャルミーティング時にも意見交換会の場で個別にご意見をいただいたり、他の講師の講義に参加していただいてご意見をいただく試みを始めている。2024年度中に、プログラム運営委員会を設置する予定である。 (自己点検・評価) この目的のための委員会は未設置だが、講師を依頼している企業と定期的に面談を行っており(次年度の継続契約も含め)、オフィシャルミーティングでも講師をお願いする際にも忌憚のないご意見を伺っており、それらを評価として振り返りをしながら課程の内容に反映させていく。2024年度中に、自己点検評価も含めた評価委員会を設置する予定である。
㉔社会人が受講しやすい工夫:	すべての講義はオンライン対応とし(県外生が大半であることもあり)、18:00～19:30、あるいは18:00～21:10としている。業務あるいは家庭の事情によりリアルタイムで受講できない学生も少なくないため、オンデマンドで後から視聴したり、必要なら繰り返し視聴もできる体制としている。さらに、科目の一部に関して、補助教材を作製し(589頁)、必要に応じて使用してもらっている(「ヘルスケアイノベーションとLiaison Science－基本編－電子書籍としてAmazonで販売)。
㉕ホームページ:	また、長期履修制度(2年間の授業料で最大4年間在学可能)を設けており、職業を持つ社会人が経済的な負担は最小限にしながら、ゆとりをもって受講し、研究することができる。 https://www.kochi-u.ac.jp/kms/kmshi/